

「相手が納得するアドバイス」

英語 第2学年 少人数授業

川北町立川北中学校

1 事例の概要

本校の教科・領域の活用力の考え方は、授業においては、学ぶ意欲を高める授業を工夫することによって育つと考える。関心・意欲を高めることが、疑問や課題を発見する力（思考力・判断力）となり、疑問や課題は解決するための資料・事実を探究する力（思考力・判断力）となり、課題解決はまとめ、表現し、伝える力（表現力）となり、その学習の達成感や満足感は、次の学習への意欲・態度につながり活用する力を育てていくと考える。

今年度は研究の視点として、疑問・課題の発見においては【学ぶ意欲の向上】、資料・事実の探究においては、【学び合いの場の設定】、課題解決の表現、伝達としては【言語活動の充実】という3つの視点から、「学ぶ意欲を高める授業づくりの工夫」の研究をすすめた。

この3つの視点のなかで、英語科の【学び合いの場の設定】を視点とした英文作成の授業実践を報告する。今回の授業では留学先でホームステイしている2人の悩みを理解し、それに対するアドバイスを考えることが中心の活動であった。本単元で学習する **have to** と **must** を用いて単に英文を考えるだけでなく、相手や自分の立場も考えた上で、悩んでいる2人が納得するアドバイスを考え、表現するためペア活動を取り入れた。またペアで考えたアドバイスを実際に人に伝えようと、アドバイスをビデオに向かって伝えるビデオレター作成を基礎コースで行なった。発展コースでは、ペアで考えたアドバイスを伝える役だけでなく、悩んでいる2人の役も設定し、感想や決意などを返す活動にまで発展させた。ペアでアイディアを出しながらアドバイスの文を作り、それをビデオレター作成で共有し、実際に感想を言うことで自然なコミュニケーションにつながるという更なる学び合いができたと感じている。この授業後、各ペアで考えたアドバイスを掲示することで、更に共有化を図り、次の表現活動への意欲向上につなげられたと感じている。

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の目標

must / mustn't を用いて、アドバイスを書くことができる。（表現の能力）

(2) 指導上の工夫点

【活用力を向上させるための学ぶ意欲を高めるための工夫】

① 場面をとらえて言語活動に取り組む工夫

動画を用いて英語の音声と映像で場면을捉え、状況や心情を理解した上で、それに対応するための言語活動につなげた。

② 表現力向上の工夫

ホームステイをして悩みを抱えている生徒に対するアドバイスを英語で考えることに加えて、他の生徒のアドバイスを聞いて感想を英語で述べる活動を設定した。

③ 思考力・判断力向上の工夫

アドバイスを考える際に、一人一人の考えを広げたり、深めたり、その考えをまとまりのある内容で構成したりすることを目的に、ペア活動を取り入れた。

3 指導の実際 (発展コース)

時間	学習活動	主な発問 (●) と指示 (▲)	教師の支援 (○) 評価 (☆) 活用力 (★)
深 め る	Introduction ・奈々とカルロから届いたビデオレターを見る。 ・相談の内容を理解する。	●奈々とカルロは、どんなことに悩んでいるのでしょうか？	
	奈々とカルロが聞いて納得するアドバイスをしよう。 Activity ・ペアになってアドバイスを考える。 ・ワークシート（個人用と発表用）にアドバイスを書く。	●みなさんが2人の先生ならどのようなアドバイスをしますか？ ▲must や mustn't を使ってアドバイスを考える。 ▲辞書を使用してもよい。	★自他の考えを比較、整理し、より良い内容を求めながら書く力。（学び合う力） ☆must や mustn't を使い、説得力のある内容でアドバイスを書くことができる。 【表現】ワークシート ○自分ならどう言ってほしいか考えてみたり、教師からヒントを出したりする。
ま と め る	Conclusion ・ペアで考えたアドバイスを相手に伝わるように発表する。 ・奈々、カルロ役ペアは感想を簡単に述べる。 Closing	●みんなのアドバイスはそれぞれどんな内容でしょう？それを聞いて奈々・カルロならどう思いますか？ ▲先生役のペアと奈々・カルロ役のペアを決める。単にアドバイスを発表するだけでなく、奈々・カルロ役はアドバイスを受けて、感想や決意等を先生役に応答し、自然な会話になるようにする。	

4 成果と課題

(1) 成果

映像を用いることで、生徒達は、二人の相談内容に加えて心情にも迫ることができたため、一層相手のことを考えたアドバイスを作ることができた。また、自分達が考えたアドバイスで状況や気持ちがどう改善されるのか、理由も付け加えて発表することができた。

発展コースでは他の生徒のアドバイスに対し、感想や決意を述べる活動も取り入れ、相手の考えを聞いて理解し、自分達がその内容について思ったことを英語で述べることができた。この活動でペアでの学び合いだけでなく、クラス全体への共通理解にまで広げることができた。

このような活動を通して、生徒達は一方的に伝えるだけでなく、伝えられた内容を理解して、更にそれに対して自分の考えを言うことができるようになってきた。このことは、話題をつなげたり、広げたりしながら自然なコミュニケーションを図る上で大切なことであると考えている。

(2) 課題

2年生の英語科では、少人数授業を行っているので、いつも授業の導入においてそれぞれのコースのねらいをはっきりおさえておくことが必要である。また英語で聞いて、考え、表現するという一連の学習活動をすべて英語で行えるような課題内容や、具体的な手立て等をさらに工夫していく必要がある。英語を用いてコミュニケーションを図る手本を示すという意味においても、英語の表現をより多く与えるという意味においても、教師が自然なかたちで、できるだけ多く英語を用いるようにしたい。